



4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～ 第2回日本ヘルスマーケティング学会学術集会報告

秋山 美紀
慶應義塾大学環境情報学部

ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～にて、第2回日本ヘルスマーケティング学会学術集会シンポジウム「健康行動とソーシャルマーケティング——望ましい行動を起こすための仕掛け」を開催しました。会場がほぼ満席になるほど大勢の方々にお越しいただき、質疑応答も活発で、当該分野の関心の高まりを感じる充実した時間となりました。

本シンポジウムの狙いは、健康課題の解決にソーシャルマーケティングを用いた実践と研究の最前線を紹介し、研究エビデンスをどのように社会に実装していくのか、また実践をどのように研究にしていくのかを議論することでした。パネリストは、(株) キャンサースキャンの福吉潤さん、東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 健康教育・社会学分野 保健社会学講座の鎌田真光さん、東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻疫学保健学講座の奥原剛さんと、同志社大学商学部、ソーシャルマーケティング研究センターの瓜生原葉子さんにコメンテーターをお願いしました。

はじめに、福吉潤さんが、「エビデンス・プラクティス ギャップを埋めるためのソーシャルマーケティング」という演題で、研究成果をいかに社会に実装してきたのかについて話されました。福吉さんは民間企業のマーケティング担当から公衆衛生の世界へ入り、ソーシャルマーケティングの実務家として、行政のがん検診受診率向上の支援など、エビデンスに基づく実践を牽引してこられました。講演では、行政の人員不足などの課題に触れながら、行政・ソーシャルマーケティングの専門家・研究者の協働の重要性について論じるとともに、その活動の根底にしっかりとエビデンスがあることの重要性を強調されました。

次に鎌田真光さんが「ソーシャルマーケティングを活用した身体活動促進の実践的研究」という演題で、成果を上げたご自身の実装研究を紹介しました。運動不足をなくすための数々の研究の中でも、島根県雲南市における多面的地域介入は、世界で初めて成功したクラスターRCTです。地域レベルで4.6%以上の運動実践を上昇させた背景には、地域住民との協働体制の構築や、緻密なマーケティング戦略がありました。この他、スマートフォンアプリを用いたプロ野球チーム応援とウォーキングを組み合わせた仕掛け「パ・リーグ ウォーク」も紹介し、成功の理由としてチームへの貢献意識が内発的動機づけになっていたことを示唆されました。

最後に登壇した奥原剛さんは、「進化心理学に基づく健康行動を促す仕掛け」として、人間の根源的欲求に訴求する健康行動メッセージの効果と可能性を、様々な実証研究とともに紹介しました。従前の病気回避メッセージの繰り返しだと、受け手がメッセージ疲労を起こして行動意欲が削がれることも先行研究からわかっており、それを防ぐためにも、病気回避以外の欲求に訴求するようなメッセージを考えることは重要であると述べられました。また、こうした研究から得られる知見の蓄積から、健康行動を説明・予測する統合的な枠組みを構築できる可能性も示されました。

三人のパネリストの発表の後、瓜生原葉子さんが、3名のパネリストの発表のエッセンスを、ソーシャルマーケティングの理論と紐づけながら振り返り、本シンポジウムの主題である、研究エビデンスをどのように社会に実装し、また実践をどのように研究にしていくのかという観点から、その過程でのチャレンジや取り組むべき課題についてコメントされました。

上記のように、人々の健康の維持と増進のために望ましい行動への変容を促すための様々な知見・手法を、最新の研究エビデンスとともに紹介していただいた後での会場とのディスカッションは大いに盛り上がり、時間切れになるほどでした。

会場で示唆に富むコメントやご質問をくださった皆様、素晴らしい発表をご用意くださったパネリストの福吉さん、鎌田さん、奥原さん、コメンテーターの瓜生原さん、そして司会進行をとともに担ってくださった昭和大学保健医療学部の的場匡亮さんに、心より感謝申し上げます。